

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述, 計算, 描図, 選択, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

平易な内容から標準的な内容まで幅広く出題されている。

その他トピックス

今年も描図, 論述問題, 計算過程の記述が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算 描図	化学平衡 反応速度	化学	反応速度を中心とする問題である。触媒を加えたときや加えないときの速度定数を求める計算などが含まれている。また、触媒を加えたときの反応時間に対する生成物質の濃度の描図も出題されている。	標準
II	選択 記述 計算 論述	Ca 化合物	化学	不純物(CaCO ₃)を含む Ca(OH) ₂ の性質と反応などから不純物を定量する内容である。また、水の沸点が高い理由の論述も含まれている。	標準
III	記述 論述	脂肪族化合物 芳香族化合物 鏡像異性体	化学	C ₉ H ₁₀ O ₃ の構造決定を中心に、加水分解生成物の性質や反応についても問うている。また、ジアゾニウム塩の性質や2つの不斉炭素原子をもつ鏡像体の構造式なども問われている。	標準
IV	選択 記述 計算	アミノ酸 反応速度	化学	アミノ酸の種類や性質, 等電点の計算, タンパク質の熱変性の反応速度等に関する内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理しておくこと。
3. 論述問題は努めて平素から書く練習をしておくこと。
4. 問題演習を十分に行っておくこと。